

平成 25 年 9 月 17 日 00136 号

編集者:佐藤 寿春

北見市幸町 8 丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

北見武道通信

ニュースレター【事務局情報】

北見市武道館開館記念事業等の予定が発表されました！

■10月12日(土) 施設見学会

(北見市武道館/13時00分~16時00分)



■10月18日(金)

山下泰裕先生による講演(北見芸術文化ホール 18時30分~)

演題【人生の金メダルを目指して】

■10月19日(土)

北見市総合武道祭(北見市武道館/11時00分~16時00分)

連載 中国「老子」の思想 二十章 愚者の心

知識を万能視する考えを断ち切れれば、悩みはなくなる。

礼に適(かな)うといい、適わぬといっても、*どれだけの違いがあろうか。善といい、悪といっても、どれだけの差があるだろうか。ひとがするから自分もそうする。これではドウドウめぐりで、悩みはいつまでの尽きない。

人々は浮き浮きと楽しげだ。あたかも酒宴の席にあるかのよう、花見に興じているかのよう。だが、わたしの心は、静まりかえって動かない。まだ笑いを知らぬ赤子のよう。何をしようという気も起こらぬ。

人々はみな意欲に満ち溢れている。

だがわたしだけはボンヤリと、すべてを忘れはてている。

わたしの心は愚者の心だ。何ひとつ分別がつかぬ。

人々はみな明敏だが、わたしだけは暗愚だ。

人々は決断力に富むが、わたしには何ひとつ分明なものはない。

定めなくたゆたう海、あてどなく吹く風、それがわたしの姿である。

人々はみな有能だが、わたしだけは木偶(でく)に等しい。

わたしだけが人々から離れて、母なる自然のふところに抱かれようとする。

原文:絶學無憂。唯之與阿、相去幾何。善之與惡、相去何若。人之所畏、不可不畏。荒兮其未央哉。衆人熙熙、如享太牢、如春登臺。我獨怍兮其未兆、如嬰兒之未孩。乘乘兮若無所歸。衆人皆有餘。而我獨若遺。我愚人之心也哉。沌沌兮。俗人昭昭。我獨若昏。俗人察察。我獨悶悶。忽兮若海、漂兮若無所止。衆人皆有以。而我獨頑似鄙。我獨異於人、而貴食母。二十一章に続く 〈礼に適うといい…*〉 原文「唯と阿とは」。「唯」はハイというていねいな返事、「阿」はアア、ウンといった粗野な返事、いずれも擬声語である。